

第1回議会改革特別委員会

平成25年4月24日

議題：検討項目の協議について

(審議の概要)

1. 県内市町村の状況について

議会活性化検討委員会の最終報告の中で、特別委員会を設置し、検討すべきとされた「議員定数・報酬」の見直し、「政務活動費」の支給、「会派制」の導入の4項目について、県内市町村の状況を事務局から説明する。

2. 各委員の意見について (抜粋)

(1) 検討項目関係

- ① 議会活性化検討委員会で最終報告が示されたが、それを詰めていくという認識でいる。
- ② 議会活性化検討委員会で、出前報告会や休日・夜間議会等課題事項として出されたものを中心にやるべき。
- ③ 4つの検討事項以外で議会改革についてテーマを提案し、審議してもらいたい。
- ④ 今の議会のホームページでは、詳細が分からないので、わかりやすく作って町民に見えるようにするのが改革の第一歩だと思う。

(2) 定数・報酬・政務活動費・会派制関係

- ① 議員定数、報酬については、方向性を出すのは難しいので、会派制、政務活動費から検討してはどうか。
- ② 定数について、今後議論する場合も町民に説明のつく結果が出ればと思う。
- ③ 定数は減らしつつも、報酬は上げていかないとまともな議員活動が厳しくなってしまう。
- ④ 定数については、ある程度町民の声を聞きつつも、将来を見据えて定数・活動費等の検討を行っていくべき。
- ⑤ 議員も町民も理解しあい、その前提で定数・報酬などを決めていくべき。
- ⑥ 議員報酬を決めるのに、当事者だけで決めるのは片手落ちになる可能性がある。有識者の意見を取りまとめられる機関があるとよい。
- ⑦ 政務活動費については、県内の町村の約半数が支給している。今後は当町においても支給されたほうがよい。
- ⑧ 町民の意見を聞くのも必要。相反する立場のオブザーバー、公聴人を選んで意見を聞くのもひとつの方法。
- ⑨ 議員は町民の代表で来ているので、議会のことを決めるのに町民の意見を聞かなければ決められない議員であってはならないと思う。

3. 特別委員会の開催回数について

特別委員会は、毎月実施することに決定する。

第2回議会改革特別委員会

平成25年5月23日

議題：検討項目の協議について

(審議の概要)

1. 各委員の意見について（抜粋）

(1) 検討項目関係

- ① 検討項目について、前回の会議では色々な意見があったが、来年3月までに結論を出すことになっている定数、報酬、政務活動費、会派の4点にしぼって進めてはどうか。特に定数をどうするかが一番の問題で、報酬、政務活動費、会派は、それに付随してくると思う。
- ② 活性化検討委員会で課題事項とした4点について、特別委員会に申し送ったことについて、それなりの意味があったと思うが、検討委員会の委員に出られた方もいるので、それを踏まえたうえで考えた方が良い。

(2) 定数・報酬・政務活動費・会派制関係

- ① 町民は、現在の議員定数は多いと思っていると思う。議員の中でもそういう話を聞く。何人減らしてよいかわからないが、減らす方向で検討してはどうか。
- ② 定数の問題は、難しい問題である。町民の代表である議員の定数をあまり減らして行くと、かたよりも出てくる。都市部と地方部のバランスもある。現在の定数を類似団体と比べてみると、適正な数だと思える。減らす場合はその理由付けがないと町民に説明ができない。
- ③ 町民の考えは各々あると思うが、近隣市町がほとんど現状維持ではなく減らしている。ただ、近隣が減らしたから、うちも減らすというのは理由にならないと思う。
- ④ 特別委員会自体で、減らす必要があるのか、増やす必要があるのか、現状維持が良いのか、その辺の意見交換をやらないと先に進まないと思う。
- ⑤ 定数と報酬がどうしてもくっついてしまう。現在の議員報酬では、子育て世代では、家庭を支えられない、生活して行けないというのは周知の事実だと思う。若干定数を減らして、町の将来のために力を尽くせるような環境を作るのも大事だと思う。
- ⑥ 定数を減らし報酬を上げる、もしくは上げられないのであれば、政務活動費でカバーするののひとつの方法だと思う。
- ⑦ 今の議員報酬で議員活動が十分にできるかというところもまた問題である。定数を若干減らし、減らしたことにより削減できる経費の7、8割分を政務活動費として支給し、実質的な議員の負担を軽減させる方が町民に説明するときには正直なところだと思う。
- ⑧ 定数が何人が適正であるのか一番の疑問である。基本的には現状維持もしくは定数減だと思っている。報酬との絡みで、定数を減らした代わりに報酬を上げたということでは、町民の受け止め方はどうなのか。政務活動費として支給

し、議会活動の中に活かしていくのであれば、町民にも説明しやすい。

- ⑨ 定数を減らす意見がほとんどであるが、なんで減らすのかという議論が必要である。個人的には、当町の定数も報酬もちょうどいいところにあるという考え方によって変わってきている。ただ、特別委員会を設けたということは、間違いなく定数を減らす方向にあると思う。また、その理由付けがこの委員会の中で基本になるものが必要である。

(3) 視察研修について

- ① 同じような状況の中で合併して、当議会より先進的にうまくいっている定数削減したり、しなかったりそういうところを視察したらどうか。
- ② 優良事例の視察については、特別委員会だけでなく、全議員で行った方が良いのではないか。
- ③ 同じ時期に合併した山武市は議会改革特別委員会が早くできて、1回定数を削減した。また削減する準備をされていると聞いているので、どのように取り組んだのか話を聞いてはどうか。

(4) その他

- ① 定数の問題、報酬の問題を考えるうえで、ある程度権威のある先生に聞くのも意味があると思う。

2. 視察研修の実施について

近隣市町の中で優良事例の視察研修を実施することに決定する。

第3回議会改革特別委員会

平成25年7月5日

議題：行政視察につて

(審議の概要)

1. 行政視察について

山武市に視察研修を依頼したが、山武市においても議会改革特別委員会において検討を重ねている段階であるということで、視察の受け入れは容赦いただきたいとの回答があった。

2. 各委員の意見について(抜粋)

(1) 視察研修関係

- ① 決めることは、会派制や政務活動費などほかにもある。視察に行くのは、それを協議して、仕上げの段階まではいかなくとも半分くらい過ぎてからのほうが、質問事項も増えるし、よいのでは。
- ② 暗中模索の中、何か手引きになるようなことが発見できるのではと思い、視察については賛成します。
- ③ 先進議会として、匝瑳市議会への視察を実施してはどうか。
- ④ 先進的な議会がどのようにやったのか聞いて、委員会等で集まったなかで意見を出すのがよいと思う。
- ⑤ 定数について見直すか、現状維持か検討するのに研修も必要と思う。
- ⑧ 減らした議会ではどのようなことを考えながら減らしたのか、勉強するのが今回の研修だと思う。
- ⑨ 匝瑳市のみでなく、勉強するなら1か所に限らず、いろいろ行くのを希望します。
- ⑩ 視察は広く意見を聞く第1回目として、まず近隣の匝瑳市へ行く。

(2) 定数・報酬・政務活動費・会派制関係

- ① 議会改革についての議論が、現在定数と報酬のみになっているのが疑問に思う。
- ② どこからやっていこうかとなった場合、平成26年3月までに決めるという項目が4項目あって、それに焦点を絞りながらやっていく。
- ③ 来年の3月までに決定するという予定なので、タイムスケジュールを決めていかないと大変だと思う。
- ④ 議員定数の問題はそう簡単に導き出せる問題ではない。ほかにも色々あるが、この問題をまず最初に取り組みようと、いま議論している。
- ⑤ 活性化検討委員会から特別委員会に申し送られたのは、この4項目であると理解している。
- ⑥ 定数・報酬については、議会も町民も関心がある事なので一番最初に検討していくべきだと思っている。
- ⑦ 委員会の中で議論しながら自分たちの形を作っていく、ほかの議会で参

考になることがあれば取り入れていく。

- ⑧ 議会改革をやるというのは、町民が、議会議員は何をしているのかわからないというのが根本にある。議会報告会・討論会をやって、定数を減らすありきではなくて、町民に周知することが必要だと思う。事務局任せではなく、議員が動くという事が最大の議会改革と思う。そのうえで、必要ないという事なら定数減もよい。
- ⑨ 定数を減らせば、口数が減り、エリアが広がり、町民サービスが低下する。定数を減らすのは一番簡単で町民受けもよいが、それがいいとは思わない。
- ⑩ 活性化検討委員会で定数の問題が出たが、どういうことで現在の定数に問題があるのかの議論がなかったと思う。

3. 行政視察先について

行政視察先については、内諾をいただいている匝瑳市議会に決定する。